

富岡町除染検証委員会（第1回）議事要旨

日時：平成27年9月1日（火）13:30～15:30

場所：富岡町役場桑野分室 二階会議室

出席委員：河津委員長、石田副委員長、藤田委員、飯本委員(代理)、井上委員(代理)

配布資料：

議事次第

委員名簿

資料1 富岡町除染検証委員会設置要綱

資料2 富岡町の役割と復興への軌跡【富岡町】

富岡町災害復興計画（第二次）～概要版～【富岡町】

資料3 富岡町における環境省除染事業について【環境省】

富岡町における除染の状況【環境省】

資料4 富岡町除染検証委員会の進め方(案)【富岡町】

議事：

1. 委員長・副委員長選出

(ア)事務局から富岡町除染検証委員会設置要綱の説明（資料1）

(イ)宮本町長により河津委員を委員長に指名

(ウ)委員長挨拶

(エ)河津委員長により石田委員を副委員長に指名

(オ)副委員長挨拶

2. 委員紹介

(ア)事務局から委員及びオブザーバーを紹介

(イ)委員より挨拶

3. 富岡町の概要報告（資料2）

(ア)事務局より、資料2に基づき説明がなされた。以下、議論された内容の概要。

① 富岡町災害復興計画(第二次)にある帰還時期(早ければ平成29年4月)の考え方について、そのきっかけはどのように考えているのか。何をもって判断するのか。

⇒発災後6年のタイミングで設定しており、そこまでには復興拠点などの整備も行いたいという考えである。帰還については、別途「帰町検討委員会(仮称)」を今年度中には設置し、本委員会での意見も踏まえながら、その中で検討を進めていく予定である。

② 説明の中で帰還を望む人の割合が増えたとの話があったが、その他の割合はどのようになっているのか。

⇒今年実施した意向調査結果(集計中)では、大まかに“帰還する”が2割(昨年より増)、“まだ判断できない”が3割、“帰還を断念”が5割(昨年より増)となっている。

③ 県外に避難されている方々からは、帰還について相談する窓口が無いために判断がつけられないという声を聞くことがあるが、そのような組織は整備されているのか。

⇒今年に入って埼玉県への窓口の設置、いわき支所の拡充を行っている。また、県外で行われるイベントへの職員の派遣や、他町村の復興支援員との横の連携などにも積極的に取り組んでいる。

⇒除染に関連しては、県外に避難されている方々についても、必ず説明を行い、同意をいただいでから進めている。また、町の広報に掲載していただくことで必要事項について周知を図っている。

4. 富岡町の除染現況報告(資料3)

(ア)環境省より、資料3に基づき説明がなされた。以下、議論された内容の概要。

① 森林除染の進捗率が82%と高いように思われるが。

⇒森林全体ではなく、生活圏と森林の境界から概ね20mの除染対象範囲面積を分母にして算出した進捗率である。

② 森林除染について、生活圏から20mでは低減率が良くないのではないかと。以前に、住民が立ち入るところは50mにするとか、フォローアップ除染を行うといった話もあったがどうなっているのか。

⇒生活圏の線量を低減することを目的としているため、生活圏との境界から概ね20mについて除染することとしている。

③ 生活圏から20mでは不安だという声が住民から聞かれるが、対応策等は検討されていないのか。

⇒実際に、他市町村において除染後に林縁から20mより奥の森林を除染する実証試験を行ったが、生活圏の空間線量に与える影響は変わらなかったため、境界から20mより奥の除染を行うことは難しい。

④ 農地除染について、削り取りの厚さを5cm以上にしたという説明があったが。

⇒農地について、富岡川の北側の除染工事の中で土壌の深さごとのセシウムの濃度分布を確認したところ、5cmよりも深いところが汚染されている農地が点在することが確認された。そのような農地を含むエリアは表土を5cmより厚く削り取った。

⑤ 農地については、イノシシや牛により攪乱されているということも言われているが。

⇒富岡川以北の農地除染に着手したのが昨年であり、その時点では雑草や灌木が一面に茂ってしまった状況で、イノシシ等による攪乱の痕跡は確認が困難であった。そのため、前述の方法で汚染状況を確認しながら除染を進めた。

⑥ 除染前後の線量の比較について、時間減衰は考えていないとあったが、除染前の測定からはだいぶ時間が経っているのではないかと。

⇒除染作業の直前と直後に線量を測定しており、資料ではその値を用いている(除染後か

ら現在までの自然減衰は考慮していない。また、同時期に測定されたものではない)。また、直前直後の測定の間隔は概ね1ヶ月以内なので、その間の自然減衰による線量低減効果を除くこともしていない。

⑦ 資料2に戻ってしまうが、除染検証委員会の中で検討してもらいたい内容というのは、もう少しブレイクダウンしたものが出てくるのか。

⇒除染作業終了後にスポット的に高線量というところがあるので、データやガンマカメラの結果を踏まえ、原因、技術的な対応の可能性等を検証していただきたい。また、居住制限区域と帰還困難区域の境界における影響、国の避難解除の数値の取扱い等についても議論いただきたい。

⇒スピード感が求められる内容なので、各委員の経験も踏まえ、情報提供をお願いしたい。

5. 富岡町除染検証委員会の進め方の確認 (資料4)

(ア)事務局より、資料4に基づき説明がなされた。以下、議論された内容の概要。

① 住民目線の考えで進める中で、予算がかかるものについても町として計上して進めていくのか。

⇒国の直轄エリアであり、町としての対応も考慮しつつ、まずは国に申し入れしていきたい。

⇒調査委託料に若干の余裕があるため、ご提案があれば検討していきたい。

6. その他

(ア)次回の開催日時については9月下旬とし、各委員の予定を確認しながら、委員長と事務局で決める。

(イ)第2回の委員会では富岡町の現地視察を実施する予定である。

以上